



特集

ゲームで防災教育

災害とはどのようなものかを知り、災害時に状況に応じた的確な判断・行動を学ぶのが防災教育です。今回の特集では、ゲームを用いた防災教育について取り上げます。人と防災未来センターと毎日新聞社で実施している「ぼうさい出前授業」のレポートのほか、防災ゲームと関連書籍の紹介を掲載します。

夏休みには、ひとぼう資料室で防災ゲームの体験企画も行います。子どもも大人もいっしょに楽しく！防災ゲームで学びましょう！

「ぼうさい出前授業」とは？

「ぼうさい出前授業」は、人と防災未来センターと毎日新聞社によって 2013 年、2014 年に実施され、本年度で 3 回目を迎えます。

実施校は、西日本で応募のあった中学校から選ばれ、2013 年には大阪府の貝塚市立第五中学校と和歌山県の美浜町立松洋中学校と徳島県の北島町立北島中学校の 3 校、2014 年には徳島県の海陽町立穴喰中学校と兵庫県南あわじ市立南淡中学校の 2 校で開催しました。

＊

毎日新聞の記者が東日本大震災や阪神・淡路大震災の経験を報告し、当センターからは矢守克也前震災資料研究主幹と震災資料専門員がゲーム形式の防災学習「クロスロード」を通じて、日頃から自分の暮らす地域における災害対策を考えることや、意見交換の大切さを伝えました。

「クロスロード」では困難な意思決定状況を体験し、災害対応を自分事として考え、話し合うことで、自分と異なる価値観の存在に気づくことができます。

考える・決める・話し合うことを大切にしたいゲームであるため、人数に制限なく実施できることも特徴的です。2014 年 12 月には、全国 10 か所を会場に「1000 人のクロスロード」も行われました。



▲ 南淡中学校での授業の様子



▲ 穴喰中学校での授業の様子

2014 年に「ぼうさい出前授業」で訪問した穴喰中学校では 17 人で教室、南淡中学校では 297 人で体育館と異なるロケーション・人数で行い、前者は班ごと、後者はインタビューで意見を発表しました。

また、ハザードマップの見方を通して校区付近の地理的条件を知り、いざというときの行動を想定することの重要性も伝えました。

“クロスロード” 生みの親！



人の命に関わる防災の問題を「ゲーム」にたとえること自体、不適切と思われる方もいるかもしれませんが、でも、あえてこの比喻を使えば、「防災」は「人間対自然」の「ゲーム」、「減災」は「人間対人間」の「ゲーム」と位置づけることができるでしょう。たとえば、避難所運営をめぐる対立や葛藤、複数考えられる復興防災対策からの選択では、人びとが何を重視し、社会は何を選びとるかが大切になるからです。この意味で、プレイヤー同士がインタラクションするゲームという方法は、「減災」時代にふさわしい防災教育ツールだと言えます。

今回の「出前授業」では、特に、「ホームとアウェイ」について考えさせられました。その土地に自ら立ってそこに暮らす子どもたちにそこにやってくるかもしれない津波想定について話すのと、人と防災未来センターのセミナー室で話すのとでは、たとえ同じことを話すとしても、当然意味合いが異なるからです。

「いや、同じ被害想定について話しているんだから、だれがどこで伝えようが同じこと」という意見もありえます。情報（インフォメーション）の伝達を問題にする「防災」の枠内では、たしかにそうでしょう。しかし、それを「人間対人間」の間のコミュニケーションとして見る「減災」の立場では、そうは言えません。同じサッカーチームのパフォーマンスがホームとアウェイでは大きく変わる場合があるのと同じです。ホームにはホームの、アウェイにはアウェイの伝え方があると感じました。

矢守先生の語る防災ゲームと出前授業

防災ゲーム あれこれ

防災教育に利用できるゲームはさまざまです。
資料室所蔵のゲームを一部紹介します。

クロスロード

● 対象年齢：全年齢 ● プレイ人数：1グループ5人程度

開発：チームクロスロード、2004年



「人数分用意できない食料を配布するか」「避難所にペットを連れて行くか」など、正解のない質問に Yes/No で答え、その理由を述べ合います。グループ内で多数派になった人に青い座布団、一人だけ違う選択をした人がいる場合にはその人に金の座布団が配られ、最終的に座布団を最も多く獲得した人の勝ちです。このゲームを通して災害時に発生する様々なジレンマに対して心構えをすると同時に、自分以外の人の考え方を学ぶことができます。阪神・淡路大震災の経験をもとに作られた「神戸編・一般編」に続いて、「市民編」「災害ボランティア編」が作成・販売されています。

SHUFFLE (シャッフル)

● 対象年齢：6歳以上 ● プレイ人数：3～8人

開発：NPO法人プラス・アーツ、2010年

防災・サバイバルに関する知識を学ぶことのできるカードゲーム。場に並べられたカードのお題に沿って手札を出し、お題のカードが全てそろったら手札を手順どおりに並べ替えます。正しい順番になるように並べられたらポイントゲット。手札を全て場に出したらあがりです。あがりの順位によって追加のポイントがあり、全員あがったときのポイントで最終的な順位が決まります。お題は「消火器の使い方」「紙食器の作り方」などで、このゲームを通じて正しい手順を自然に覚えることができます。



防災トランプ

● 対象年齢：全年齢 ● プレイ人数：2人以上

開発：福本壘、2013年



トランプゲームにコミュニケーションの要素がプラスされました。札には「緊急地震速報が発令された」「危険生物に遭遇した」などの危険な場面の例が書かれています。その札を使う場面で例に沿った話をし、他のプレイヤーが「それは確かに危険だ」と共感できればボーナス（ババ抜きの場合次のプレイヤーに手札を2枚引かせる。）をもらうことができます。ババ抜きやスピードなど一般的なゲームにボーナスルールを加えるので誰でも参加が可能です。自分の身のこととして防災・減災について考え、またほかの人の話を聞く機会を提供するゲームです。

これ以外にも…

カルタ	あそぼうさいカルタ	防災まちづくりカルタ	その他	なまずの学校
	御菅カルタ	みまきっ子の水害カルタ		防災 Duck
	防災いろはカルタ	やさしい防災・減災カルタ		HUG（避難所運営ゲーム）
	防災教育 - 遊びながら学ぶ - カルタとすごろく			地震 DS72 時間
すごろく	大ナマジン防災すごろく	阪神淡路大震災双六 復興 10 年物語	以上のゲームを所蔵しています。 興味のある方は資料室までどうぞ！	
	ぼうさい駅伝	GURAGURATOWN		

関連図書紹介

『ぼうさい甲子園～未来の奇跡を育みはじめた10年間～』

(1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」10周年記念事業実行委員会 2015年)

本書は1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」10周年記念事業実行委員会から寄贈していただいた記念誌です。「ぼうさい甲子園」は、阪神・淡路大震災10周年を機に始まりました。いまや参加校は130を超え、単なる知識・ノウハウ教育ではなく、情報を集め、思考し、実行する力に焦点をあてた日本の防災教育を支えてきた基盤のひとつといえるでしょう。

本書には防災に関する教育のみならず、防災を通じて、子どもたちが自分たちの生活や将来の夢について考え、1つのことをなすときの難しさや楽しさを経験する教育実践の軌跡が描かれています。この10年間、日本の防災教育がどのように取り組まれてきたかを知るのに必読の書です。



『クロスロード・ネクスト― 続:ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション』

(吉川肇子・矢守克也・杉浦淳吉 ナカニシヤ出版 2009年)

2004年7月に発表され、優れた防災ゲームの1つとして各地でプレイされている防災ゲームに「クロスロード」があります。本書は前著である『防災ゲームで学ぶリスクコミュニケーション:クロスロードへの招待』(2005年)以降のクロスロードの新たな展開や可能性について記したものです。

まず、様々な現場で、クロスロードがどのように受け止められてきたのかが実践事例を通じて明らかにされます。特にファシリテーター(ゲーム運営者)の養成や、ゲームに関する情報交換の手段としての「WebCROSSROAD」や「クロスロード新聞」を通じて、クロスロードがバージョンアップしてきた経緯が述べられます。そして、クロスロードのあとに登場した防災ゲームの可能性が展望されているのです。

本書出版以降のクロスロードの新展開についてはWebCROSSROAD (<http://www.maechan.net/crossroad/shinbun.htm>) を参照してください。



●○トライやる・ウィーク

兵庫県内の中学生が職場体験をする「トライやる・ウィーク」が実施されました。センターでは毎年複数の学校から生徒さんを受け入れており、6月は神戸市北区にある有馬中学校の2年生2人が、資料室と運営課での業務を体験しました。資料室では2日間、震災資料専門員の仕事のお手伝いをしてもらいました。

一般の見学では入ることのできない収蔵庫では、資料の保存環境について解説を聞き、保存専用の箱の組み立てや、資料の入れ替え作業を行いました。資料の酸化を遅くするために特殊な紙素材で作られた保存箱は、初めて目にするものでしたが、手際よく30個以上の箱が完成しました。

資料室内では防災カードゲーム「シャッフル」(NPO法人プラス・アーツ作)を体験。生徒さんたちがルールを読んで理解し、職員にやり方を教えるかたちで、一緒に実践をしました。前ページでも紹介したシャッフルは、可愛いイラストが入ったカラフルな札でテンポよく進行するUNOのようなカードゲームです。ポイントを得るために、イザという時に役立つ知識(消火器やAEDの使い方など)を考えて答える場面が登場し、楽しいだけでなく、知識を得ることもできます。

「おもしろかった」「はじめて知った」「ここがわかりにくかった」など率直な感想を聞くことができ、私たちにも多くの発見がありました。資料室の夏休み企画「防災ゲーム本気あそび」に、この気づきを活かしたいと思います。

朝の電車が大変だったというお二人、ありがとうございました。





震災資料のメッセージ

「震災資料のメッセージ」は、人と防災未来センターに寄贈された一次資料（震災当時に使用された現物）を、年度ごとのテーマに沿って紹介する展示企画です。

本年度は、食べることの多義性に注目した4期の展示を行います。生命の維持のために不可欠な「水」、他所からの願いをのせた「救援物資」、ともに作り・食べることをかなえた「調理器具」を各期で取り上げ、寒い被災地の生活にあたたかさを与えた「食」を、震災資料から振り返ります。



第1回 2015年6月2日(火)～2015年8月30日(日)

命を守るための水

ビール瓶に詰められた飲料水、給水袋、ポリタンク。
いのちの水を確保するために使われた資料と共に、水汲みの様子を描いた絵画も展示します。



第2回 2015年9月1日(火)～2015年11月29日(日)

心をいやした救援物資のあまいモノたち

第3回 2015年12月1日(火)～2016年2月28日(日)

炊き出し—調理器具(1)—

第4回 2016年3月1日(火)～2016年5月29日(日)

食卓—調理器具(2)—



▲ 第1回「命を守るための水」展示風景

順次展示替えをします！

夏休み防災未来学校2015 資料室企画のおしらせ

「謎解き！ひとぼうツアー」

2015年8月1日(土) 11:00/13:00

所要時間：1回 60分(2回実施)

対象者：小学生～一般

定員：20名 ＊親子、大人だけの参加も歓迎です。

「センターの前の四角い石は何？」「どうして透明なの？」「震災資料が19万点もあるって本当？」などのひとぼうにまつわる『謎』の答えを探して、収蔵庫へ。他にも通常の見学コースでは入ることのできない場所に、震災資料専門員がご案内します。

「防災ゲーム本気あそび」

ミニ展示&体験 2015年7月18日(土)～8月30日(日)



カードゲーム、カルタ、すごろくなど、色々な防災ゲームを紹介します。ゲームの体験コーナーでは、期間中に決められたゲームで遊ぶと、未来学校のポイントがもらえます！(ポイントは景品と交換できます)



Facebook はじめました

人と防災未来センター資料室では、このたびFacebookのページを開設しました。お知らせや日々の出来事を随時更新していきますので、ぜひご覧ください。

▶ <https://www.facebook.com/dri.archives> (Facebookアカウントをお持ちでない方も閲覧できます)



震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。震災後、すぐには手放せなかったものの、震災の出来事を伝えるために活用したいとお考えの方は、ぜひ一度資料室までご相談ください。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

人と防災未来センター 資料室(西館5階)

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

HPアドレス <http://www.dri.ne.jp>

開室時間 9:30～17:30(展示施設とは時間が異なりますので、ご注意ください)

閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 12月29日～1月3日

資料室は無料で
ご利用いただけます